

研究所だより

第 74 号

平成 29 年 7 月 21 日 発行

三 股 町 教 育 研 究 所

三股町小・中学校にタブレットPC (Windows) が導入されます!!

平成 29 年度、三股町小中学校職員及び長田小児童にタブレット PC (Windows) が導入されます。これにより、三股町研究所ではタブレット PC を使った効果的な活用について検討しています。



**タブレット PC = 【パソコン + 実物投影機 + 電子黒板】の役割
この役割を無線(ワイヤレス)で TV に映し出せます**

◆タブレット PC でできること

- ① 画面を拡大・縮小できる
- ② 画面の一部に印・マークをつける
- ③ 部分的に隠したりできる
- ④ 動画で動きをつけて視覚的に提示する
- ⑤ 音声を出して提示できる
- ⑥ カメラ機能で記録する
- ⑦ データを蓄積できる
- ⑧ PC 用ソフト (Word、Excel、PowerPoint) 等が使える
- ⑨ デジタル教科書を活用できる
- ⑩ パワーポイントで自作のプレゼンテーションができる
- ⑪ インターネットを活用できる
- ⑫ タイマーとして大きく提示できる
- ⑬ 動画サイトを活用できる
- ⑭ 児童・生徒のノートの取り方指導に活用できる
- ⑮ 児童・生徒の作品が提示できる
- ⑯ 児童・生徒の活動を記録に残し、何度も振り返られる
- ⑰ 個別指導 (期間指導) でヒントカードとして活用する

◆タブレット PC を活用した学習場面

| A 一斉学習 | B 個別学習 | C 協働学習 |
|--|---|--|
| <p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となります。</p> <p>▶A1: 教員による教材の提示 図書の拡大表示や音声読み取り、拡大・縮小などの活用</p>  | <p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となります。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となります。</p> <p>▶B1: 個に応じる学習 一人一人の習熟の程度等に応じた学習</p> <p>▶B2: 調査活動 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>  | <p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となります。</p> <p>▶C1: 発表や話し合い グループや学級全体での発表・話し合い</p> <p>▶C2: 協働での意見整理 複数の意見・考えを整理して整理</p>  |
| <p>▶B3: 思考を深める学習 シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>  | <p>▶B4: 表現・制作 マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p> <p>▶B5: 家庭学習 情報端末の持ち帰りによる家庭学習</p>  | <p>▶C3: 協働制作 各自の持ち寄り</p> <p>▶C4: 学校の壁を越えた学習 遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>  |

～「ICTを活用した指導方法～学びのイノベーション事業実証研究報告書平成26年4月」より～

◆タブレット PC の導入時期

- ・ 校務用 PC・・・H29. 8月に導入
(現在、職員室に設置している校務用 PC をタブレット PC に更新する。
校務、授業等で活用できる。)
- ・ PC 室用 PC・・・H29. 8月導入 (長田小)
H30以降、他6校にも導入予定



「新しい研究に向けて」

三股町教育研究所
研究指導員 園田 修司

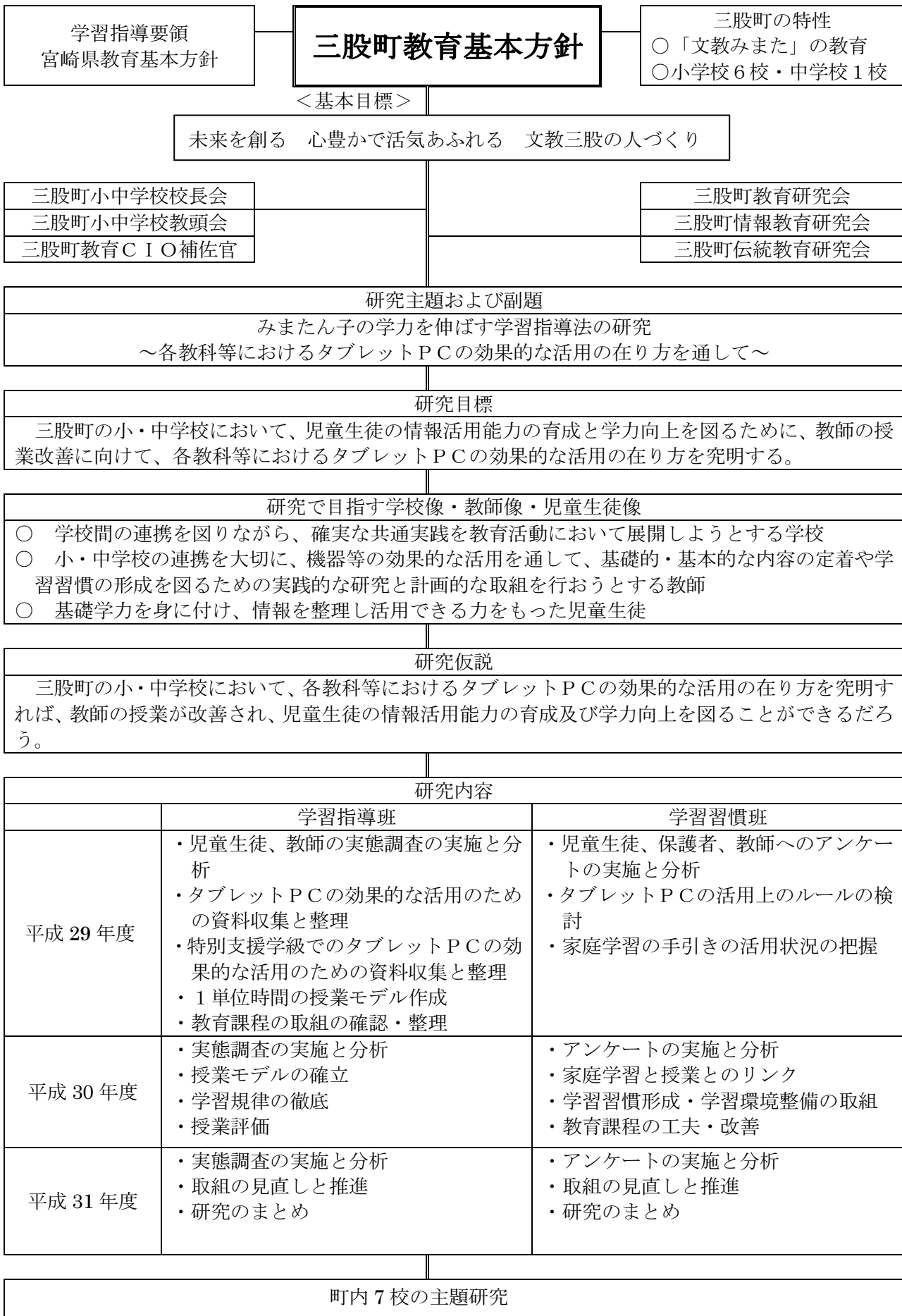


三股町は、平成26年度から3カ年間、宮崎県教育委員会から「子どもの学びを高める“ひむか”の授業づくり推進事業」の「基礎学力定着指導実践推進の地域指定」を受け、研究を推進してまいりました。特に平成28年度は、研究主題「みまたん子の学力を伸ばす学習指導等の研究」と、副題「小中連携を大切にした基礎的・基本的な内容の定着と学習習慣の形成を通して」として、この研究主題と副題を全ての小中学校で統一し、平成26年度から3カ年間の研究の集大成として10月24日（木）に研究公開を開催したところです。県内から約340名の先生方が参加され、本町の研究の一端をみていただきました。参加者の先生方にとって学力向上のヒントになったものと考えております。この研究においては、三股町教育研究所の果たした役割は大変大きなものでありました。それは、教師の授業改善や家庭学習の充実が図ることができ、児童生徒の学力向上につながったものと考えています。教育研究所のリーダーシップにより、町内の7つの小中学校の約150名の先生方が、心を一つにして「チーム三股町」として、約2500名の児童生徒のために積極的に取り組んだことがその要因の一つであると考えます。ただ、依然として学力向上は大きな課題であり、それを支える教師の授業改善を今後も図っていく必要があります。

平成29年度は、平成28年度までの研究を生かしつつ、さらなる教育研究所の充実を図り、三股町の小中学校の教育の充実発展のため、児童生徒の学力向上のために尽力していきたいと考えております。具体的には、平成32年度から小学校が、平成33年度には中学校が新しい学習指導要領による教育課程がスタートします。今回の学習指導要領の改訂のポイントとして、「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的な深い学び」等があげられています。それらの視点からの授業改善に向けての施策の一つとして、「情報活用能力の育成」「プログラミング的思考の育成」が言われています。そこで、本年度から新しいテーマ「各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方」について研究を推進し、教職員の皆さんに提案し理解をしていただき、授業で活用していただくことで、児童生徒の学力向上につながるようにしていきたいと考えています。本年度も引き続き、皆様方の教育研究所へのご理解・ご指導のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、昨年度までの研究指導員の馬場真吾先生の後を引き継ぐことになりました、園田修司です。歴史と伝統のある三股町教育研究所の充実のため、さらには町内の小中学校の児童生徒・教職員のために、しっかり精進したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

研究の全体構想図



平成29年度 三股町教育研究所 研究員

私たちは「文教みまた」の継承と発展のために頑張ります!!



三股小学校
近藤 加代子



三股小学校
能勢 和弘



勝岡小学校
佐藤 文香



梶山小学校
日高 政晴



宮村小学校
奥野 左紀子



長田小学校
藤田 政宏



三股西小学校
小山田 友美



三股西小学校
今田 拓晃



三股中学校
木村 精吾



三股中学校
南 洋一郎

私たちは、平成29年度の研究所の研究員です。2年目の研究員が5名、1年目の研究員が5名です。

三股の子どもたちの学力を伸ばすために日々研究しています。毎週火曜日18:00~20:00に中央公民館で研究会を行っています。

よろしくお願いいたします。

編集あとがき

1学期の研究会では、「タブレットでどんなことができるのか。」「タブレットを使って、どのような場面でどのような活用ができるのか。」について話し合いを進めてきました。8月に、各校校務用タブレットPCを導入するので、その操作方法、活用の仕方等、各校の研究員が校内研修等にてお伝えしていく予定です。また、夏季研修会では、本年度の研究内容についてご報告させていただきます。今後は、学習指導班、学習習慣班に分かれて、「タブレットPCを使った1単位時間の授業モデルの作成」「タブレットPCに関する児童生徒への実態調査と分析」を行う予定です。これからも、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

「町内教職員の共通理解・共通実践を」

三股町教育委員会
指導主事 原田 誠

教育研究所は、各学校から選ばれた先生方（研究員）で構成され、三股町の教育の推進に大きく貢献していただいております。本町の教育研究所の利点は、週1回の研究所での研究が、研究所内にとどまらず、各小中学校の教育に普及しているところです。

その一つが、昨年度の研究公開です。町内7校の小中学校が一斉に「みまたん子の学力を伸ばす学習指導等の研究」を研究主題とし、平成26年度から3ヵ年、町の教育研究所が核となり取り組んでいただき、大きな成果を残すことができました。

研究の柱の一つに授業モデル「みまたんモデル」があります。

㊦「見通しをもたせためあての提示を」、㊧「学び合いで考えに深まりを」、㊨「確かめることで学習内容の定着を」、特に授業の展開場面で必ず「みんなで考え合う場を設け、筋道や根拠を明らかにしたペアやグループ、学級全体での発表や学び合いを行う」ことで、児童生徒の意見や考えをより確かなものにしていくものであります。まさしく新学習指導要領改訂のポイント「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善であります。

平成29年度の「全国学力・学習状況調査」（本町HPに掲載）の教科に関する調査の結果では、小学校2教科の平均正答率は、全国平均と同程度（国平均との差が±1未満）で、過去5年間で一番の結果を残し、中学校2教科の平均正答率は、前回の調査と比べ相当高くなっており、全国平均とほぼ同程度（国平均との差が±1～3未満）でした。小学校質問紙調査結果では、「授業での話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えることができる」と回答した児童が、前回は全国平均とほぼ同程度でしたが、今回は全国平均より相当高くなっていました。また、中学校では、「授業の中での目標（めあて・ねらい）が示されている」と回答した生徒が、平成26年度調査では、全国・県に比べ相当低い状況でありましたが、今回の調査では同程度となっております。ともに授業改善（みまたんモデル）の成果が学力向上につながっているのだと思います。

平成22年に「文教みまた」子どもサミットで制定された「児童生徒憲章」に基づいた「伝統教育」がスタートしました。「校門での一礼」「黙想・座礼」「無言清掃」などの取組は、謙虚な心、感謝の心、されには忍耐力、集中力などを育むことにつながり、心を鍛える場（心の土台）となっております。教育研究所が中心となり作成した「指導の手引き・文教みまたの教育」を基に、町内の全教職員で共通理解、共通実践をしていただいているところです。昨年度は、手引きの改訂版を作成いたしました。

また、三股町教育の日（10月第3土曜日）に開催された「第4回文教みまたフェスティバル」では、過去最高の379名の参加がありました。「文教みまた」の伝統教育への理解や関心を深めることができたのではないかと考えております。

本町の公立小・中学校教職員（約200名）のうち、約40名が4月の教職員人事異動に関わります。今年度町内の学校に赴任された先生方をはじめ、町内の全教職員が、「伝統教育」を軸にして、幼保小中学校及び教育研究所がより一層の連携・協力して教育に携わることで、文教の町としての歴史と伝統ある三股町で育つ子どもたちが、心豊かでたくましく生きる力をもった子どもたちに育ってくれることを願っております。



第1回研究授業 教師のみがタブレットPCを活用した授業

平成29年10月24日(火) 第3学年4組国語科「ようすをくわしく表そう」 三股西小 今田拓晃教諭

本時の目標

○様子を表す働きについて理解することができる。

【言語についての知識・理解・技能】

授業仮説

○「まなびあい」の段階において、具体的な場面をタブレットPCで示しながら、様子を表す言葉を考える活動を設定すれば、様子を表す働きについて理解することができるであろう。

～学習指導過程～

みとおしの段階

①大きさの違う画像を使う



②「どんな」を表す言葉について考える



まなびあいの段階

③タブレット持ちながら、机間指導



④雨の音を聞き、様子を表す言葉を考える



たしかめの段階

⑤練習問題を大型テレビに表示



⑥板書とタブレットを使った振り返り



～授業の様子～



授業者ふりかえり

- ・パソコンと違って持ち運びができるので、机間指導をしながら操作することができた。
- ・動画にしたことで「どのように」を表す言葉を児童が具体的に考えることができた。

成果と課題

- 動画は、静止画とは違って、音声を表現することができる。雨が降る様子を、音声つき動画で見せることができたのは、大変有効的であった。
- 静止画に直接書き込むことで、教師の指示や児童の考えを残すことができる。
- 「たしかめ」の段階で、タブレットPCを使ってフラッシュカードに取り組んだ。フラッシュカードだと、短い時間で多くの問題に取り組むことができる。
- 机間指導しながら、タブレットPCを操作することができるため、個別指導と全体指導とを並行してできる。
- 動画をダウンロードするなどの手間(準備)がかかり、動画の保存の設定をする必要がある。
- 授業に役立つ動画(今回の動画)などを町全体で保存し、共有できる体制を整えるとよい。
- 児童は(黒板)(テレビ)(タブレットPC)(ノート)(プリント)など、いろいろなところを見る場面があった。次から次へと視線が変わり集中が途切れることにもなる。児童の視線を今はどこに向けさせるのかを教師は考えておく必要がある。
- タブレットPCが途中で止まってしまう場面がある。そのようなときに、どう対処するか考えておく必要がある。

第2回研究授業 教師＋児童がタブレットPCを活用した授業

平成29年11月7日(火) 第4学年理科「ヒトの体のつくりと運動」 長田小 藤田政宏教諭

本時の目標

○自分の体を観察して、骨や筋肉があることを知り、曲がる場所は骨と骨のつなぎ目の関節であることを理解することができる。
【自然現象についての知識・理解】

授業仮説

○「まなびあい」の段階において自分の体を触って観察したり、ICTを活用して自分の考えを書き込ませたりする活動を設定することで、児童は問題意識をもって観察に取り組み、ヒトの体について理解を深めることができるであろう。

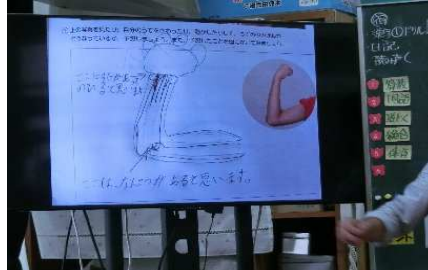
～学習指導過程～

みとおしの段階

①前時の学習内容を発表



②学習問題の予想を確認



まなびあいの段階

③友達同士で写真を撮影し合う



④撮影した画像に考えたことを書き込む



たしかめの段階

⑤友達の画面をヒントとしても活用



⑥大型テレビを使い、自分の考えを発表



～授業の様子～



授業者ふりかえり

- ・静止画に直接書き込むことで、教師の指示や児童の考えを残すことができた。
- ・教師によるタブレットPCの基本的な活用法（カメラ機能やペイントの使い方等）を示すことで、児童自身が学習課題に沿ったものを撮影し、その写真に気付いたことを書き込み発表するという学習の流れを確立することができた。

成果と課題

- わずかな期間で児童がタブレットPCを上手に活用していた。
- 動画や写真など児童に視覚的に訴えることができ、授業に対する関心が高まり、理解が深まった。
- パソコンと違って持ち運びができるので、机間指導をしながら個別に指導ができた。
- 職員のスキルの差があり、今後共通理解を図っていく必要がある。
- タブレットPCの効果的な活用法について研究を深めていく必要がある。
- 児童・生徒の基本的なタブレットPCの操作について指導していく必要がある。

今学期の三股町教育研究所の取組

1 研究主題及び副題、研究仮説の設定

- 研究主題及び副題
 - 研究主題 みまたん子の学力を伸ばすための学習指導法の研究
 - 副題 各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方
- 研究仮説
三股町の小・中学校において、各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を究明すれば、教師の授業が改善され、児童生徒の情報活用能力の育成及び学力向上を図ることができるだろう。

2 班別研究会

- 学習指導班
 - ・ ICTに関する実態調査の実施と分析
 - ・ タブレットPCの効果的な活用のための資料収集
 - ・ 1単位時間の授業モデル作成
- 学習習慣班
 - ・ 家庭学習に関する実態調査の実施と分析
 - ・ タブレットPCの基本的な操作方法の周知
 - ・ タブレットPCを使用する上でのルール作り



3 授業研究会の実施

- 第1回授業研究会
 - ・ 平成29年10月24日
 - 第3学年 国語科 「ようすをくわしく表そう」
 - ・ 教師のみがタブレットPCを活用した授業
- 第2回授業研究会
 - ・ 平成29年11月7日
 - 第4学年 理科 「ヒトの体のつくりと運動」
 - ・ 教師+児童がタブレットPCを活用した授業



4 その他

- 平成29年度九州地区教育研究所連盟役員会・総会
第68回研究発表会（鹿児島大会）参加
開催場所／かごしま県民交流センター 開催日／11月21日（火）～22日（水）
- 平成29年度三股町教育研究所歴代所員会の開催
開催場所／メインホテル 開催日／12月2日（土）

編集あとがき

2学期の研究会では、各校でのタブレットPCの活用状況の報告や活用方法の情報交換を毎回行いました。活用方法の情報交換では、実際にタブレットPCを使って練習するなど、研究所員自身の活用知識を広げることに努めました。また、2度の研究授業を行いました。それぞれの場合において、成果と課題がありました。今後の研究会において、改善を図り、年度末には、先生方に「教師のみがタブレットPCを活用した授業」「教師+児童がタブレットPCを活用した授業」を報告、提案させていただきたいと思っております。

さらに、アンケート実施における実態調査も行いました。「みまたんモデルの実施状況アンケート」「家庭学習状況アンケート」「タブレット活用状況アンケート」へのご協力ありがとうございました。得られた回答を、今後の研究に生かしていきたいと思っております。今後も、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

「大切にしたいこと」

三股町校長会会長
三股町立三股小学校
校長 川崎 正一

「少しだけお時間をいただけますか。」

人生の大事な時間をほんのわずかでも人様から頂戴するときには、それぐらいのひと言は添えるもんだと先輩に言われたことを思い出します。そのときは『何をえらそうに』と、正直心がざわつきましたが、【他者への配慮の大切さ】を諭してくださったのだと後になってわかりました。30年以上も前のことですが、今でも鮮明に覚えています。

今回、せっかくの機会をいただきましたので、『大切にしたいこと』と題して、思いをいくつか述べさせていただきます。共感していただけたところがあれば幸いです。

【啐啄同時】という言葉があります。鶏の雛が孵る場面の様子をとらえた言葉で、教育界でも教師と児童生徒との理想の関係をあらわす際に用いられる言葉です。雛が卵から孵る際、卵の中から親鳥に合図をおくってきます。そのタイミングを察知して、親鳥は雛が出てきやすいように絶妙のタイミングで外から殻をつついてサポートしてあげるんです。これは、親鳥に高性能のアンテナが備わっているからできる業だそうです。我々教師は、日々の学校生活で児童生徒の発する様々なサインを的確に把握し、適切に対応することができているのでしょうか。多岐にわたる業務の中にあっては、児童生徒の発するサインを敏感にキャッチするのはとても難しい状況もあります。しかし、そんな中でも、児童生徒に向けたアンテナの精度を高めていく日々の努力は真摯に続けていきたいものです。

【変わらずおいしいねと言われるために変わっていく】とは、あるコンビニ店の営業努力を語った言葉です。お店はお客様のロイヤリティを高めることを重視し、一度お得意様になったお客をずっとつなぎとめておくために、定期的にヒット商品やロングセラー商品の質を高める努力を決して怠らないそうです。それをしなければ、お客様の厳しい注文には絶対にこたえられないといいます。見えないところで様々な試行錯誤を繰り返し、商品の品質を高める営業努力を行っているんですね。教師にも同じようなことが言えます。仮に教師が自らを高める努力を怠ったとしたら、『すごい先生』がいつしか『当たり前先生』となり、ついには児童生徒や保護者にとって『物足りない先生』へと変わっていってしまうかもしれません。

【教師は授業で勝負する】という言葉のとおり、日々の営業努力と教師の力量が如実にあらわれるのは授業です。そして、授業で特に大事にしたいのは、『ねらいを達成する上でポイントになる場面（火花を散らす瞬間）』です。様々な材料を溶接して製品をつくりあげていく製造の現場では、溶接の火花が絶妙のタイミングで確実に飛んでこそ良質の製品ができ上がっていきます。授業も同じです。ポイントを逃さない確かな授業で児童生徒と日々勝負していただきたいと思います。我々は教育のプロです。少なくとも多くの保護者はそう思っています。

スピード化、効率化が良いことと考えられ、何事にもすぐに結果を求めようとする風潮があります。しかし、人育ての現場（教育現場）では、【無駄と根気の教育】も大事にしたいところです。教えればすぐに終わるものをあえて時間をかけて考えさせたり体験させたりすることで、将来に役立つ力をじっくりと育てていくことができます。その際、教師は、児童生徒の【『なぜ、どうして』という疑問に丁寧にこたえる手間を惜しまない】ようにしたいものです。「少しだけ」とは言わずに……。



「県教育研究機関連絡協議会研究発表大会」を終えて

平成30年2月9日(金)、宮崎県教育研修センターにて「平成29年宮崎県教育研究機関連絡協議会研究発表大会」が開催されました。三股町教育研究所をはじめ、合計14の研究発表が行われ、「確かな学力」「特別の教科 道徳」「主体的な学び」「ICTの活用」など、多様な教育的課題について取り上げられていました。また、「アクティブラーニング」など今求められている学習の在り方を取り上げている研究機関もありました。



今年度より、三股町においては「みまたん子の学力を伸ばす学習指導法の研究～各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を通して～」という

主題で研究を進めてきました。今大会では、研究所で進めた班別研究や研究授業の内容をもとに研究発表を行いました。参加者のアンケートには多くの賞賛の意見がありました。今回、発表された他研究機関で行われている研究内容には、今後の研究の参考になりそうな考えや取組がありました。

これからも昨年度行われた研究公開を元に、より一層の小中一貫教育の充実を図るとともに、タブレットPCの効果的な活用の在り方について研究を進めていきたいと思えます。

今年度の研究の概要

| | | |
|--|---|---|
| <p>主題設定の理由</p> <p>本町教育のさらなる充実と発展を図る</p> <p>昨年度の研究公開の成果 ↓ 次期学習指導要領の趣意</p> <p>ICT(タブレットPCを中心に)を活用した学習活動の充実を図る</p> | <p>研究主題・副題</p> <p>研究主題 「みまたん子の学力を伸ばす学習指導法の研究」</p> <p>副題 「各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方」</p> <p>研究仮説 「三股町の小・中学校において、各教科等におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方を究明すれば、教師の授業が改善され、児童生徒の情報活用能力の育成及び学力向上を図ることができるだろう。」</p> | <p>研究所の取組</p> <p>○学習指導研究班 ・授業モデルに関するアンケート ・各教科におけるタブレットPCの活用例 ・授業検証</p> <p>○学習習慣研究班 ・家庭学習に関するアンケートの分析 ・家庭学習に関するアンケート(教師対象) ・タブレットPCを使用する上でのルール作り ・「タブレットPCの使い方」リーフレット作成</p> |
| <p>研究の経緯 家庭学習アンケート(保護者)</p> <p>家庭での学習時間(平日・休日)はどれくらいですか。</p> <p>家庭学習の平均時間(平日) 家庭学習の平均時間(休日)</p> <p>三股町が平日の学習時間の目安として設定している時間に、ほぼ近い時間学習することができている。 「全くしない」と答えている児童生徒もおり、それらの児童生徒への働きかけへの対策が必要である。</p> | <p>授業研究会(第1回)</p> <p>まなびあいの設備</p> <p>③動画などの操作がどこからでもできる</p> | <p>学習指導研究班 ICT活用アンケート(教師)</p> <p>1週間のうちにICT機器をどのくらい使っていますか。</p> <p>ICT機器をほぼ毎日活用している割合が50%以上。 ・ 多様な教師のみの使用ではなく、学年間で活用に関する情報交換(授業での活用場面等)を行っている。 ・ 多くの先生方が抵抗なく授業に活用できている。</p> |
| <p>使用上のルール 児童生徒用のきまり</p> <p>教師だけでなく、児童生徒用のきまりについても作成している。教室等に提示して使用できるように掲示している。町内教職員の見学を参考にしたが、今後も改良し活用しやすい資料作成を行う。</p> <p>タブレットパソコンを 使うときのきまり</p> <p>○タブレットパソコンを大切に扱います。 ○落とさないように気をつけて、勝手に持ち回しません。 ○きれいに掃除をします。 ○机の上に置かないようにします。</p> | <p>授業研究会【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットPCが導入されたことで、動画資料の提示の簡便化及び紙資料の軽減化、教材準備の時間短縮化などが図られた。 ○ 教師のみの活用だけでなく児童の授業での活用方法も検証し、授業で活用することの良さや課題点を明らかにすることができた。 ○ 授業実践が多く集まり効果的な活用の在り方を究明する足がかりとなった。 ○ 簡単なタッチ操作やTVと接続しての使い方を図解入りでマニュアルの形にまとめることができた。 | <p>授業研究会【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タブレットPCを活用することで、授業が改善されているのか、検証を行う必要がある。 ○ 教科ごとにどのような活用法があるか、さらに研究を深めていく必要がある。 ○ タブレットPCが各校に配当されていないため、大人数での授業(児童4～5名グループで1台活用等)を検証するまでに至っていない。 ○ 機器トラブル等が起きにくくするシステムの構築を目指す必要がある。 |

《 三股町教育研究所研究発表に参加された方のアンケートより 》

- 各学校、教室へのタブレットPCの配置、とてもうらやましいなと思いながら発表を聞かせていただきました。今後導入が進む分野だと思うので、使用した先生方の感想や子どもたちの声など、もっと話を聞きたいと感じました。
- タブレットPCの使用率がとても高く驚いた。先生たちからすると手軽に使いやすいものだったのだと思う。活用のマニュアルの作成、先生たちへの広め方などとても参考になった。
- 教師が授業でタブレットPCを使用する実践、教師＋児童がタブレットPCを使用する実践が大変わかりやすかった。今回が研究の1年目であるとのことですので、今後の研究で教師と児童が活用した授業実践がより良いものになっていくことを願い、今後もお話が聞けることを楽しみにしています。
- タブレットPCの活用例についても見ることで、大変参考になりました。また、読書活動の推進も研究の中にありました。「1人80冊」という目標が立てられていましたが、達成度がどのくらいか気になりました。子どもたちが読書をしないことに悩んでいたところでしたので、勉強になりました。
- 未来の学校のICT環境を想像すると、今後タブレットPCの導入は必至であると考えます。全ての学校、教室、児童に100%完備されるまで、どれくらいの時間がかかるのかわかりませんが、本研究の取り組みを各学校に広げていくことが必要と感じました。整備途中の研究は、これから導入となる学校にとって大変有難いです。学力向上を目指し、有効活用を図りたいです。
- 9月に導入したにも関わらず、活用率が80%を超えているのはすごいと感じました。学校でどのような研修をして職員に普及したのかが気になりましたが、簡単なカメラ機能や書き込みから活用しているということで納得しました。タブレットPCを使うことの効果がどのようなものであるのか、ぜひ研究して広めていただけたらと思います。
- タブレットPCが導入されたばかりということでしたので、今後子どもたちがどのように変容していくのか気になりました。児童に対しても教師に対しても使用上のきまりや使い方の共通理解を図ることは大切だなと感じました。実際の動画があつてわかりやすかったです。
- 教師用マニュアル、児童生徒用マニュアルがあり、誰でも気軽にタブレットPCを使うことが可能になり、授業実践が多く集まるということは町の先生方が当たり前のように使っている証拠だと思います。ICTは使用することにより成果が上がる場面で活用したいので、PCとタブレットPCとの違いをどう捉え、このような特徴があるから授業のこの場面で使える、という整理をしていただけると広まると思います。
- タブレットPCは本当に便利です。それが学校の予算で購入されていたり、環境の整備が進んでいる三股町がうらやましいと思います。児童生徒にどのように使わせていくかをとても知りたいと思っています。ぜひ今後も研究を深められて、教えていただけると有難いです。

《今年度の研究を終えて》

研究指導員 園田修司

本年度から、新しいテーマ「各教科におけるタブレットPCの効果的な活用の在り方」(副題)について研究を推進してきました。1学期は、文部科学省の考え方やタブレットPCの使い方、活用方法等について研究を深めました。2学期からは、タブレットPCが手元に届き、授業の中でタブレットPCの具体的な活用の在り方について検証することができました。例えば、学習内容に即した動画や静止画像・写真などを教師から提示したり、児童生徒自身がカメラ機能を活用したり、ペンでの書き込みをしたりするなど、タブレットPCの機能を活用することで、児童生徒の関心意欲を高め、思考や表現を助けることに繋がること分かりました。本年度は、新テーマでの取組は始まったばかりで、先生方への情報提供など十分できませんでしたが、今後もタブレットPCの効果的な活用の在り方について研究を推進し、授業が児童生徒にとって分かる・できるものになり、学力向上につなげたいと考えています。さらに、各学校でも80%以上の先生方が積極的に授業で活用していただいているというアンケート結果もあります。引き続きタブレットPCを積極的に活用していただき、研究所へ逆提案していただくなど、三股町全体でタブレットPCに取り組むことができればと思っています。

最後に、本年度研究を共に推進してきた10名の研究員の皆さんの真摯な取組により、大変充実した研究ができ素晴らしい成果を挙げることができました。心より感謝申し上げます。



平成29年度 三股町教育研究所

◇ 今年度の研究を終えて ◇

いよいよ研究員最後になりました。毎週火曜日が研究所の日です。「また火曜日かあ。」と、足取り重く研究所に向かう日々もありました。しかし、振り返ってみると、決して苦しいばかりの研究所ではありませんでした。

研究所の扉を開けると…そこには仲間がいます。多くの事を語り合いました。教えてもらうことが多く、刺激を受けました。貴重な経験でした。ありがとうございました。

学び続ける先生でありたいものです。

三股小学校 近藤加代子

町内学校全ての学級担任にタブレットPCが配布され、無線環境が整備される大きな変革の時に研究所に関わらせていただきました。軽量で教室のあらゆる所から、無線で視覚的に示せるタブレットPCは、まさに教師にとって夢のスーパー機器。その可能性は無限大でした。そんな研究を毎週手探り悩みながらも進められ、とてもいい時間でした。毎回輪番で行うスピーチも、メンバーのキャラが表れて楽しかったです。1年間共にしたメンバーに感謝。そして、支えて下さった皆様に感謝です。

三股小学校 能勢和弘

昨年は初任者として勝岡小学校に赴任し、たくさんのお話を学ばせていただきました。今年は赴任2年目。このタイミングで研究所で学ぶ機会が与えられたことは、本当に有難いことだと思います。

研究所では、先生方の話にうなずくばかりで、何もお役に立つことができませんでしたが、たくさんのお話を学び、吸収することができた実りの多い1年間でした。本年度の研究を、次年度にしっかりとつなげていきたいと思っています。支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

勝岡小学校 佐藤文香

研究公開を終え、今年度はタブレットPCの導入に伴い、テーマも活用の仕方になりました。導入が少し遅れたものの周りの研究員の先生方と相談しながらなんとか研究を進めることができました。各校の先生方への情報の提供も十分ではなかったと思いますが、足りないところは、さらに来年度研究を進めてほしいと思います。皆様本当にありがとうございました。この一年間に学んだことをもとに次年度もタブレットPCを活用したいです。

梶山小学校 日高政晴

今年度も研究所で実施しました実態調査のアンケートや、授業研究会に御協力をいただきありがとうございました。研究所としても先生方にタブレットPCをどのように活用していただけるかを考えてきましたが、有効な情報をあまりご提供できなかったのではないかと反省をしています。

ICT機器は授業を支える有効な手段の一つです。これからもみまたん子のために活用方法を考えていきたいと思っています。ありがとうございました。

長田小学校 藤田政宏

今年度の研究内容が、「タブレットPCの効果的な活用の在り方」であると分かり、機器操作が全般的に苦手な私は、研究所員としてやっていけるのだろうかと不安でいっぱいでした。案の定、研究所で話される話は、初めて知る事ばかりでした。しかし、だからこそ新鮮で面白く、毎回大変勉強になりました。研究所で学んだタブレットの活用法は、学級で即実践しました。画面を見つめる子どもたちの驚いた顔やうなずく姿が嬉しく、改めて、研究所で学ぶ機会を頂いたことに感謝するものでした。研究所の皆様、ご指導いただきました皆様、ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひいたします。

宮村小学校 奥野左紀子

研究所員として2年間、大変貴重な経験をさせて頂きました。昨年度は研究公開、今年度は新しい研究に携わったことで、子どもたちの学力向上を目指してどんな指導方法があるのか考えたり、検証したりする研究が楽しいと思うようになりました。今後も学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思っています。ありがとうございました。

三股西小学校 小山田友美

新採2年目で研究所員になり、不安なスタートでした。今年度の研究はタブレットPCについてということだったので、私はタブレットPCどころか研究のことについてもよく分からないというのが本音でした。しかし、園田先生をはじめ、周りの先生方に助けられ、一年を過ごすことができました。また、研究授業もさせていただき、学びの多い年となりました。御指導いただいた皆様ありがとうございました。今年度研究したことを来年度につないでいけるようこれからも学んでいきたいと思っています。来年度もよろしくお願ひいたします。

三股西小学校 今田拓晃

今年度はタブレットPCの研究でガラケーの私が...と思っていましたら、教育長より「そんな人だからこそ手にしたことのない人たちの気持ちがわかる」とおっしゃられ、勇気付けられました。初任研のiPad研修で周りの教師が引くぐらいはしゃいでいた私のように今後、児童生徒がタブレットPCを手にした時の喜びは多くの教育効果をもたらすことでしょう。結局、私自身使いこなすことはできませんでしたが、タブレットPCがある三股町の教育環境は素晴らしいものであると実感しました。

研究所員としての2年間の経験は今後の糧になるかと思っています。本当にありがとうございました。

三股中学校 木村精吾

今年度、研究所員に任命され、1年間を過ごすことができました。最初は、どのように研究を進めていけばいいのか、戸惑いもたくさんありましたが、皆さんと一緒に取り組んでいくうちに、とてもやりがいのある研究だと思いました。また、三股町の小中学校と一緒に研究していくということもとても良いところだと思います。あと一年間ありますが、今年度学んだことを来年度に生かしていきたいと思っています。

三股中学校 南洋一郎